**鋼鉄結合**

**ユーザーズマニュアル**

**プログラム概要**

フォルダ内にある**同じ書式で作られたエクセルのデータを**一つにまとめ、ＣＳＶ形式で出力することが可能なプログラムです。同じ書式であれば、シート間のデータ結合やファイル間のデータ結合が可能です。

フォルダ内の一括結合は、ワイルドカードを使用することで、対象外のファイルとの選別が可能です。また特定のセルの値を条件にした選別も行えるので、ブック内に異なる書式が混在していても、ある程度の精度で選別して結合することが可能です。

オープンソースのデータベース【SQLite】を使用しています。データベースを直接編集したい場合は、フリーソフトpopSQLをお使いください。

**サンプルファイルを使った説明1**

〇複数シートのデータ結合

実行ファイルと同じフォルダ内に「サンプルデータその１」と「サンプルデータその2」の二つフォルダがあります。「サンプルデータその1」フォルダの中にある「複数シートのサンプル.xls」を開いてください。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テーブル, Excel

自動的に生成された説明

２０２０年度と２０２１年度の二つのシートが存在します。この二つのシートは同じ書式で作られています。これを一つに結合させます。その際、何年度のデータかがわかるように、シート名で新たに列を作ることができます。実際に結合させると次のようになります。

テーブル

自動的に生成された説明

二つのシートのデータを結合させたので、科目名に同じ項目が二つ存在していますが、末尾の列に「シート名」という列名が追加され、どのシートの値なのかがわかるように結合することが可能です。

**実際の手順**

テーブル

自動的に生成された説明鋼鉄結合を起動します。

今回使用するサンプルデータは、ヘッダー部分にあたる部分は4行目のA列からです。

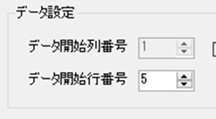
データ部分は5行目からです。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト

自動的に生成された説明

メニューのヘッダー設定で、「先頭ファイルでヘッダーを取得」を選択します。列番号は、1がA列、2がＢ列、3がＣ列という仕組みです。

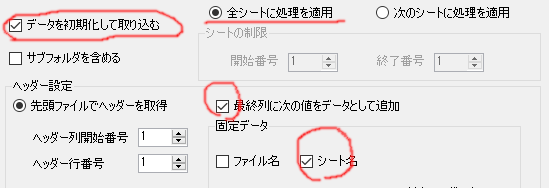
今回のヘッダーはA列からはじまり、4行目なので、

ヘッダー開始番号を1、ヘッダー行番号を4に設定します。

同様に、データはA列5行目からなので、「データ設定」項目をデータ開始列番号1、データ開始行番号5を設定します。

データ開始列番号はヘッダー列と連動していますので、ユーザが設定することはできません。

その他の設定として、「データを初期化して取り込む」、「全シートに処理を適用」、「最終列に次の値をデータとして追加」、「シート名」にチェックをいれます。

結合すると、どのシートのデータだったのかが、わからなくなってしまうため、最終列にシート名を追加します。単にすべてのデータの合計を求めたい場合等は、この項目の設定は不要です。

設定が終了したら、「ファイルの取り込み」を押し、実行ファイルと同一フォルダ内にある「サンプルデータその1」フォルダを選択します。アイコン が含まれている画像

自動的に生成された説明

取込が完了したら「データ表示ボタン」で中身を確認してください。

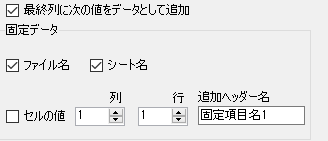
**サンプルファイルを使った説明2**

〇複数ファイルのデータ結合

実行ファイルと同じフォルダ内に「サンプルデータその2」というフォルダがあります。その中に二つのエクセルファイルが存在します。二つとも同じ書式で作られていますが、片方の部署名（B列2行目）は「営業」で、もう一つは「製造」です。二つのファイルともに、それぞれ二つのシートが存在し、2年度分のデータが記されています。

　ヘッダー設定やデータ設定は「説明1」と同じです。ヘッダー開始番号1、ヘッダー行番号4、データ開始行番号5を設定してください。

今回は二つのファイルにある、二つのシート（合計4個のシート）のデータを結合しますので、「全シートに処理を適応」を選択。

「最終列に次の値をデータとして追加」にチェックをいれ、「固定データ」項目の「ファイル名」「シート名」にチェックを入れます。こうすることで、結合した際のデータの出どころがどのファイルのどのシートなのかわかるようになります。

光, 座る, 大きい, 写真 が含まれている画像

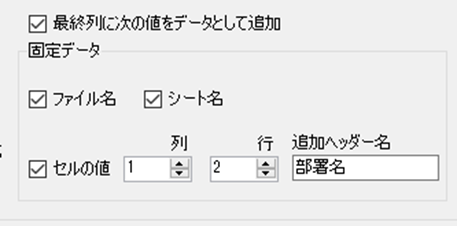
自動的に生成された説明

今回使ったデータは、セルＢ2に部署名が入力されています。

結合するファイルに部署名を加えたい場合は、「固定データ」項目の「セルの値」にチェックを入れ、列1行2に設定します。わかりやすいように追加ヘッダー名に「部署名」と入力して結合させると、次のようなデータが完成します。

テーブル

自動的に生成された説明



**その他の機能**

結合させたいブック（複数のシート）の中に、除外したいシートが存在している場合があります。

たとえば、今回の経費のサンプルデータファイルのうち、先頭のシートに社員名簿があると仮定すると、書式が異なるはずなので取り込むことはできませんし、むしろ取り込んでは不都合が生じます。

その場合は以下の方法で、必要なファイル（シート）のみ結合させることが可能です。

今回のサンプル（経費データ）には、セルA2に「部署名」というテキストが入力されています。

「次のセルに指定テキストが存在するデータのみ有効」

除外したいシートA2に「部署名」というテキストが入力されていない限り、結合の対象にはなりません。

グラフィカル ユーザー インターフェイス, テキスト, アプリケーション

自動的に生成された説明

同様に、ワイルドカードを使用することで、ファイルの選別も可能です。たとえばフォルダ内に、以下のファイルがあったとします。

【２０２０年度経費予算計画.xls】

【２０２１年度経費予算計画.xls】

【取引先名簿】

このうち、上二つの予算計画のファイルのみ結合させたい場合は、【＊予算計画】を入力することで、その他のファイルを対象から除外することが可能です。

テーブル

自動的に生成された説明

またシートの番号を範囲指定することで、余計なシートを除外することもできます。

下の例では「次のシートに処理を適用」を選択することで、２番目から４番目までのシートが結合の対象となり、それ以外は除外されます。

